

平成 15 年 7 月 26 日

人間はどこへ向かうのか？

堀尾哲一郎

7 月 22 日に東京国際フォーラムで開催された H 社 I T コンベンション 2003 に参加した。フォーラムの主要施設を使用して講演、展示会などが平行して催された。私は 1000 人以上入るメイン会場で、基調講演などを聴き、時間の合間に、展示会場を一回りした。

メイン会場では講演が始まる前にスクリーンへ H 社のキャンペーンが繰り返し放映された。その中に、「Made in Japan は力尽きたのだろうか？」、「答えは NO」、「Made in Japan は工業製品だけではない」、「Made in Japan はユビキタス(UBIQUITOUS)社会にも貢献する」、「情報化社会へ貢献する H 社、情報ライフラインは H 社 - 知力と I T で、ユビキタス情報社会を安心、安全、快適に」すなわち、20 世紀の工業化社会から 21 世紀の情報化社会へ各企業とも舵を切り始めたことを意味しているように思う。

注：ユビキタス環境とは「いつでもどこでも誰でも I T（情報通信技術）を利用できる環境」

私はメイン会場に座って、ラウドスピーカーから出る音と眩いばかりに交錯する光の中に置かれ、「人間はどこへ向かうのか？」と言う疑問が脳裏を過ぎった。人間も動物である。従って、全ての生物と調和して生きなければ将来はないのではない。しかし、科学技術は人間の欲望を満足させるためエネルギーを大量に消費する方向へ進みつつあり、人間以外の生物との乖離が益々広がっている。もちろん省エネルギーやナノテクノロジー開発の努力により、単位行為あたりのエネルギー消費は減る方向にあるが、それ以上に、快適さのためにエネルギーを消費しているのではない。

日本の技術力の健在さを再認識するとともに人間の幸せについて考えさせられた一日でした。